

地域再生とまちづくり

<第15回>

——各都市が目指すものは

「プラチナ」特別賞に

島根県雲南市は04年11月1日、6町村(大東町、加茂町、木次町、三刀屋町、吉田村、掛合町)の合併により誕生した。合併前から個性豊かなまちづくりへの取り組みが行われ、現在では「水と緑に囲まれたらるおいのある穏やかなイメージをもつ地域」「個性あふれる歴史・文化が息づく地域」「県内有数の製造業が集積する地域」「暮らして支える道路網を共有する地域」「ケーブ

ルテレビによる次世代に対応したITネットワークを備えた地域」など様々な特徴を持つ市となっている。そうした中で13年7月25日、雲南市はプラチナ構想ネットワークが開催したプラチナシティ認定制度の第1回プラチナ大賞で特別賞を受賞した。「プラチナ」には人と社会が輝き続ける願いが込められており、市が発表した「小規模多機能自治による持続可



雲南市の新庁舎



木次町の町屋を改修した三日市ラボ



カフェが開業したJR出雲大東駅

能型「絆」社会の構築」は、「地域自主組織」を結成することによって少子高齢化による地域崩壊の危機から脱し、住みやすい地域づくりを展開しようという試みである。総面積553・37平方キロ

域自主組織の機能が充実が図られ、結果として市民と行政の対等な関係・協働関係が成立することになった。地域と行政が公共の福祉向上に向け相互に高めあうことを可能にするこのプランは、

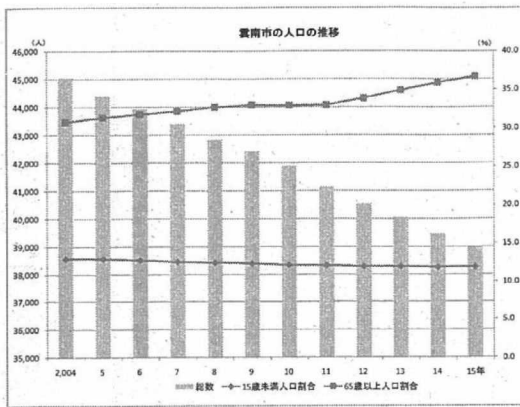
子どもたちがそれぞれの頑張りを促す連鎖によって、元気な持続可能なまちづくりを進めるといふものである。若者チャレンジでは、市主催による次世代育成事業「幸雲南塾(大人版)」が開講され、卒業生によるNPO法人の発足、カフェの開業、訪問看護事業の起業など、様々な活動がUターンに結びつき、直近3年で25人の移住が実現した。市人口の社会増減は14年の222人減から15年は92人減と改善がみられ、成果は徐々に表れ始めている。

島根県雲南市・ひとつづくりを重視するまちづくり

県内5番目の広さがあるものの、約69%を林野が占める中山間地域の雲南市は、全域が過疎の指定を受けており、人口減少・少子高齢化の進行には歯止めがかからない状況にある。

過疎対策の先進的モデル事例として全国から注目され高く評価されている。

「ひとつづくり」以上に「ひとつづくり」を重視する雲南市のまちづくりは、おっちゃん(出雲弁でゆっくり)ではあるが、着実に地域に根付き芽生えている。10年後、20年後の「プラチナ社会」の実現に期待したい。



地域自主組織を結成 過疎対策の先進モデル

人口減少・少子高齢化社会にあつては、住民が自ら考え、行動し、様々な機能を自分たちで生み出すことのできる住民自治の仕組みづくりが必要である。そこで「小規模多機能自治」すなわち「課題解決型の住民自治」の実現を目指して地

人口の社会増を目指す 更に雲南市では第2次総合計画「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、10年計画で「人口の社会増」を目指す戦略として「子どもチャレンジ」「若者チャレンジ」「大人チャレンジ」の連鎖を掲げている。具体的には、地域自主組織の推進役である元気な中高齢者、その後継者としての若者、更にそれに続く

所、不動産鑑定士・宇野榮